

*Human Resource Development Plan for Cancer :
Oncology Team Training Plan—A Six University Joint Project
to improve the level, as well as enable an equal provision of cancer treatment in the Kinki District*

神戸大学の効率的ながん臨床教育システムで
がん医療のプロフェッショナルを目指しませんか



6大学連携オンコロジーチーム養成プラン
チームリーダー

医学研究科 内科学系講座腫瘍内科学分野
特命教授 南 博信

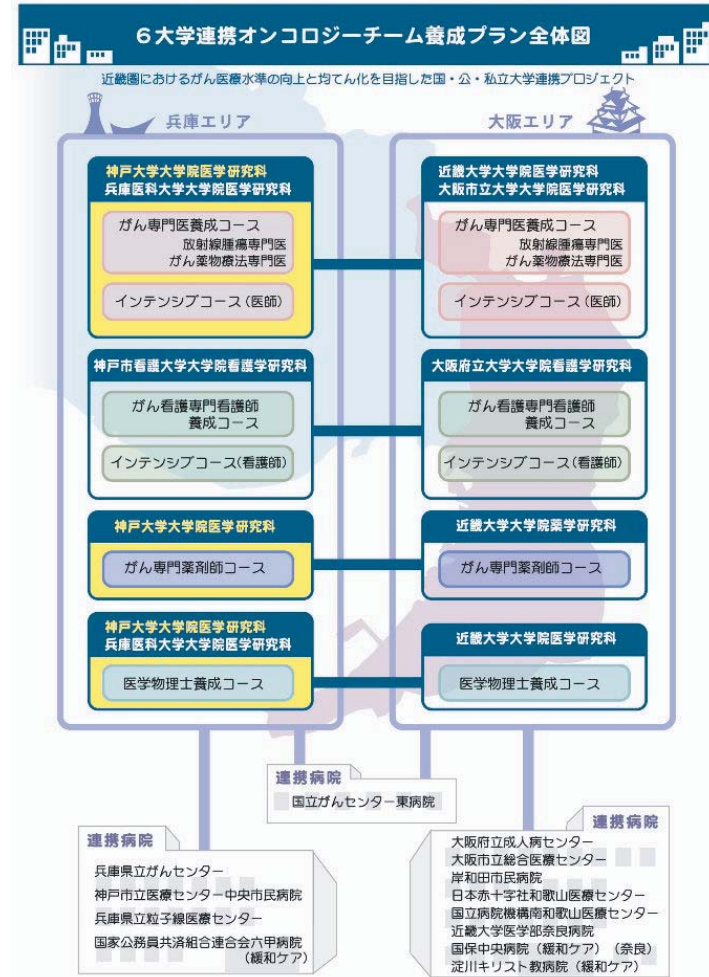
がんは、1981年から日本人の死因の一位となり増え続けています。今や「国民病」とも言われるがんの対策は日本の急務です。がんの治療技術は年々進歩しており、医療は高度に専門化しています。いまや手術や内視鏡診断をしながら化学療法を行う時代ではなくなり、手術、内視鏡、薬物治療、放射線治療のそれぞれの専門家が協力してがん治療に当たる時代になっています。また、がん治療は医師のみではできません。薬剤師、看護師、あるいは放射線治療の精度を保つための医学物理士などがチームを組んで治療に当たる必要があります。

がんを克服するために、がん対策基本法が制定され、がん対策推進基本計画が閣議決定されました。とりわけ、欧米に比べて遅れていると言われていた薬物療法、放射線治療を推進し、地域格差をなくすことが国策として決められました。現在のがん医療の現場では、幅広い種類のがんを臓器横断的に治療できる腫瘍内科医や放射線治療医が求められています。またがん薬物療法に精通した薬剤師や放射線治療の安全性を担保する医学物理士の育成も急務です。

神戸大学は、近畿大学、大阪市立大学、兵庫医科大学、神戸市看護大学、大阪府立大学とともに「6大学連携オンコロジーチーム養成プラン」において、各種コースを開設しています。高い評価を受けたこのプログラムでは6大学の選り抜きの講師陣から指導を受けることが可能です。さらに神戸大学医学部附属病院では腫瘍センターを開設しがんの診療体制を整え、すぐれたがん医療のトレーニングの提供が可能です。

我が国には複数の領域のがん薬物療法を教育できる指導医がほとんどいないために、欧米に比べて腫瘍内科医が極端に少なく「がん難民」を生み出す原因となっています。神戸大学医学部附属病院はこれらの教育ができる数少ない大学病院です。市販前の抗悪性腫瘍薬の治験も数多く実施しているため、最先端の薬剤を使用する機会にも恵まれています。国の方針としてがん医療を向上させることが決定されているため、各医療機関におけるがん薬物療法医、放射線治療医のニーズは高まっており、将来の活躍の場も数多くあります。

神戸大学医学部附属病院の効率的ながん臨床教育システムで、
がん医療のプロフェッショナルを目指しましょう。



当プランの大きな特徴としては、医師として社会に出ている方だけでなく、理工系の大学を出た修士課程の大学院生や薬剤師の方も学んでいます。国際都市・神戸という環境においては世界各国からの留学生と日々触れ合うことで自然と生きた英語も学ぶことができます。この環境を生かしてあなたも専門的知識と国際力を身につけたスペシャリストになりませんか？

